

JAXAと宇宙教育活動に関する協定を締結

心豊かな青少年の育成をめざし、宇宙活動で得られたさまざまな成果をもとにあらゆる教育現場で教育支援活動を展開しているJAXA（宇宙航空研究開発機構）と阿南市教育委員会が、1月21日、宇宙教育活動に関する協定を締結しました。

この協定は、平成20年9月に開催された「宇宙ふれあいフェスティバル」を機に、本市とJAXAとの親交が深まり実現したもので、全国で20番目、四国では初めてです。協定の締結により、本市はJAXAから宇宙教育に関する最新情報や講師派遣、教材提供を受けることができます。

調印式で田上教育長は、「科学センターの存在価値を再認識していただくいい機会であり、宇宙教育活動を通して未来に生きる子どもたちの育成に取り組んでいきたいです。」とあいさつを述べられました。

今後、市内の小中学校と連携してJAXAの独自プログラム「ゴズミックカレッジプログラム」などを活用しながら、授業への講師招聘や記念講演会などを実施していく予定です。



握手を交わすJAXA宇宙教育センター長の広浜さん（右）と田上教育長。

受け継がれる竹細工の伝統 国文祭PRグッズに決定

阿南市特産物の竹を使った伝統工芸品やさまざまな竹細工の作品を紹介する催し「活竹物語」が、12月10日から2日間、阿南市商工業振興センターで開催されました。

会場には、阿南市竹人形伝承会の皆さんが作った活竹人形や、精巧に作られた昆虫の作品、竹の温もりが感じられる竹籠などが展示されました。また、196体の竹人形を使いステージで総踊りするシーンを再現した「阿波踊り活竹人形ジャンボ連」と呼ばれる創作品は、伝承会の会員8人が手掛けた傑作で、訪れた人々は、完成度の高さに驚いたようすで見入っていました。

2日目には、活竹人形やミニ門松などを作る体験コーナーが設けられ、参加者はスタッフの指導を受けながら熱心に作品を仕上げっていました。

伝承会の活竹人形は、6月10日に開催される全日本川柳2012徳島大会の記念品になっているほか、「第27回国民文化祭・とくしま2012」のPRグッズにも選ばれています。



平成27年内の完成をめざして事業が進められている阿南市新庁舎建設事業が、省CO₂の実現に優れたプロジェクトであるとして、国土交通省が主催する平成23年度第2回「住宅・建築物省CO₂推進事業」に採択されました。これにより、省CO₂設備の導入費に對して、国から補助が受けられることとなりました。



阿南市新庁舎建設プロジェクトが「住宅・建築物省CO₂先導事業」に採択される

国土交通省の「住宅・建築物省CO₂推進事業」は、「エネルギー使用の合理化に関する法律（省エネ法）」の改正による、住宅・建築物に対する省エネ対策の規制強化の流れと合わせて、各種省エネ・省CO₂対策の推進に向けた支援策を実施している事業で、平成20年度から実施されています。すでに95事業が採択されており、平成23年度第2回では12件の事業が採択されました。自治体の庁舎が採択を受けるのは全国で2例目、四国では初めてです。

椿町中学校が環境美化教育活動で環境大臣表彰を受賞



授賞式に出席した2年生の皆さん。

公益社団法人食品容器環境美化協会主催の第12回環境美化教育優良校等の表彰式が、1月27日、都内のホテルで行われ、椿町中学校が環境大臣表彰を受賞しました。県内の中学校では初めての受賞です。

椿町中学校では、平成11年からウミガメの保護観察活動や資源ごみ回収などに取り組んでおり、ウミガメの卵の人工ふ化（平成21年まで実施）や産卵地の見学、海岸清掃など、ウミガメと共生した環境教育の実践が評価されました。

受賞式には、全校生徒26人を代表して2年生の5人が出席。式典後の懇親会では、活動発表も行いました。外山校長先生は、「ウミガメにやさしい環境は、自分たちにもやさしい環境であるという意識が生徒たちに芽生えており、今回の受賞が自信になったと思います。ふるさとに胸をはれる学校生活を送れるのではないでしようか。」と話していました。

追悼展示に想う 故・一原有徳さんの版の世界

阿南市出身で北海道・小樽を拠点に活躍した版画家、故・一原有徳さん（享年100歳）の没後一年に合わせた追悼展示が、12月22日から1月29日までの間、徳島県立近代美術館で開催されました。

故・一原有徳さんは、明治43年に那賀川町で生まれ、3歳時に北海道へ移住。小樽地方貯金局に勤めながら、41歳から油絵を始めました。その後、版画に転じ、一回切りの転写による「モノタイプ版画」の手法を用いた特異な作風で、50歳という遅咲きのデビューを果たします。退職後も版画制作を続け、69歳時には北海道現代美術展優秀賞を受賞。従来の版の概念に捉われず、幾枚もの紙を組み合わせた大型組作品を作り出すなど、飽くなき探求心で版の可能性に挑戦し、現代アートの世界を切り拓いてきました。

会場に展示された28点の作品の中には、モノタイプ手法による高さ3・6材の円筒状の作品や3枚の大型組作品が中央部に展示され、ひと際目を引いていました。版の上に塗った顔料をへらで削って表現したモノタイプの作品は、鉄くずの山に見えたり、レンガでできたブラックホールにも見えたりと、その意とするところは見る人しだい。一原さんの作品に題名はなく、それがまた見る人の想像を膨らませていきます。

8枚の絵を壁に貼り合わせたコラージュと呼ばれる作品は、自然の営みを表現した作品といわれています。モノクロやセピア色といった暗めの配色が使われ、登山家でもあった一原さんの心に映った自然の厳しさが映し出されています。

他にも、ガラス張りの陳列台には、遺族から提供された26枚の原板が展示されていました。廃材の金属板を原板に使ったものや、目に見えないほどの細かな凹凸を刻み込んだ原板もあり、一原さんの獨創性や製版技術がうかがえました。



光輝く阿南の魅力を動画で配信！ アルプスがYouTubeに投稿

URL : <http://www.youtube.com/user/AnanLEDProjectStaff>



新たな光のまちづくりを模索しようと、市の若手職員9人でつくる光のまちづくり推進プロジェクトチーム「ALPS（アルプス）」が、「光のまちづくりPRムービー」を制作し、12月12日から動画サイト「YouTube」に投稿しました。

動画は現在6本で、イベントの様子やLEDで華やぐ街並みなど光のまち阿南の魅力を満載し、世界へ向け配信中です。

制作された動画は、今後、イベント会場や県外でのPR活動にも使われる予定です。最新情報を盛り込みながら光のまち阿南のPRに広く活用されます。

動画サイト「YouTube」のトップページから、「光のまち阿南」で検索していただくとご覧になれます。

問い合わせは 企業振興課（☎22-3401）へ